

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	一般社団法人NAP Fieldみるく		
○保護者評価実施期間	R7年 1月 14日 ～ R7年 2月 20日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	1名	(回答者数) 1名
○従業者評価実施期間	R7年 1月 14日 ～ R7年 2月 20日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	年 月 日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個人の感性や情緒を尊び、芸術教育を通し支援を行っている。	野遊び・農作業・畑作業・ボルタリング等を通して、協調運動及び感覚統合を行っている。また、総合芸術活動や野外活動を通して、他者に関わる経験を積み、社会性を育み、社会生活における適応力を養う支援を行っている。	個人の成長や変化に合わせた支援を提供し行っていく。また、さらに充実を図るために児童一人一人の発達や行動をアセスメントする力を高めケースの検討を実施していく。
2	一人一人の全人的発達を促すよう適切かつ効果的な療育支援に務めている。	野外活動や自立活動の中で他の人と協力し合う体験を通し、自分の考えや、気持ちを他者に伝える力を伸ばし、コミュニケーションスキルを育む支援を行っている。また、野外活動・絵画・制作・楽器演奏・貝の収集/分類、標本制作等により、認知機能を育て適切な行動や判断ができるように支援している。	職員の知識向上を図るために療育に関する勉強会や、外部からの講師を招いた講習会などを受講して支援者としての資質の向上をはかっていく。
3	本児や保護者の希望に沿ったプログラムを作成している。	収集した情報や子ども成長段階をみながらプログラムを作成している。	保護者だけではなく、関係機関からの情報を確実に行き、明確な目標を設定していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域や他の子どもと活動する機会が少ない。	「放課後児童クラブや児童館との交流や地域の他の子どもと活動する機会」を活動として提供できていない。	保護者からの要望など伺いながら、必要とされる交流などを検討していく。
2	保護者同士の交流の機会がない。	特別プログラムや講座（わらべうた）、勉強会などで交流を行なっているが、今回の評価において、保護者同士の交流や支援がないという結果が多かったため、特別プログラムや講座、勉強会などの案内の方法を工夫する必要がある。	特別プログラムや講座、勉強会の周知、参加人数の検討を行っていく。
3			